

コリント人への手紙第二 第5章 14節

「というのは、キリストの愛が私たちを取り囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのです。」

春のいぶきを桜の木立に、小川の土手の草花に勢いよく見られる。花は淡いピンクを輝かせ、草花は濃い緑の葉に囲まれそれぞれの原色を輝かす。このいのちの源は、地中にあり、天地から湧き上がるこの季節特有の熱にある。それらのエネルギーに押し出されて植物のいのちが溢れ出す。街の通りにも、山野の光景にも、そしてコンクリートの切れ目にさえも春のいぶきが現れている。いのちが我を張って出ようとするのではない。天地の恵みに押し出されて芽でている。

なにか、私たちが生きたい、生きようとするはるか前に私たちを生かそうとする愛のエネルギーがあることを自然は明らかにしているようだ。愛されるに相應しくない者が、その惨めな姿である自覚さえ失い、ただ生きたいと我を張る者のためにいのちを落として下さったお方がいる。愛の対象として相應しくない罪人、敵対者のためにいのちを捨ててまで愛されたお方がいる。この愛が私たちを取り囲んでいる。

ここにいのちのいぶきがある。ここに相應しくない自分に死んで、生きられる愛がある。

2022年4月1日